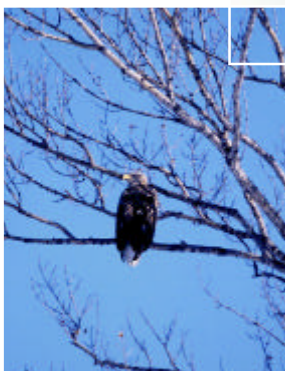


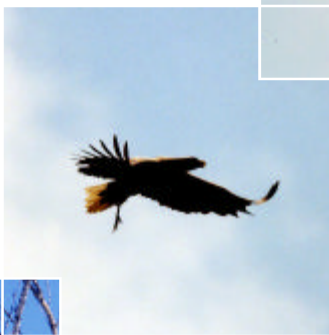
News Letter

オジロワシは翼を広げると、約2m、幅の広い翼、淡褐色の頭、暗褐色の体、白い尾が特徴的な大型の猛禽類です。北海道で少数が繁殖していますが、冬期には北日本にかなりの数が越冬のために渡ってきます。渡りは11月末に始まり、オホーツク海が流氷で閉ざされる2月に個体数が最大になります。その後、2月末から3月初めに再び北へ渡り始めます。日本での越冬数は「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック環境庁編」によると、560~700羽となっています。

北海道では秋頃になると流氷をメインとした観光案内のCMが流れ始め、そこには必ずと言っていいほどオジロワシも登場しています。図鑑などを見ても、やはり流氷や雪を背景とした写真が多いようです。そこでいつの間にかオジロワシは冬の生き物というイメージが私の中に出来上がっていたようです。



木の枝に留まるオジロワシ



ところが・・・今から6、7年ほど前、まだこの仕事を始めて2、3年、ひょっこ調査員だった私は少し暑くなりかけた川岸でラインセンサスを行っていました。周囲から包み込むように聞こえてくる鳥や蝉の声の中、まとわりつくアブやカに負けそうになりながら調査を終え、ちょっとした開放感を楽しんでいた時、新緑の斜面を背景に何か巨大な鳥が飛翔していることに気づきました。慌てて確認した鳥の体色は淡~暗褐色、尾羽根が白色！？

新緑と

オジロワシ



オジロワシ (写真提供・市野義成氏)

オジロワシは冬の生物というイメージに加えて、猛禽類は非常に数が少なく、簡単には見ることが出来ない珍しい生物、しかも海岸沿いに生息するというイメージがあったため、「もしかして尾が白化したトビ？」などと、興奮と困惑でしばらく呆然となってしまうました。結局、他の調査員にも確認してもらい、やっとオジロワシだと確定することが出来ました。

その後、オジロワシの調査が行われ、白い綿毛に被われたかわいい雛、カラスを追いかけて大きな体からは想像できない敏捷な飛翔をする個体、冬に鮭を掴もうと川に降りたら意外と水深が深かったらしく驚いたように固まってしまった個体などを観察することができました。

最近猛禽類調査が多く行われ、オジロワシにもいろいろな場所で出会うようになったため珍しいとは感じなくなっています。けれども新緑を背景にしたオジロワシは他の場所では見たことがありません。あの時の記憶は今でも鮮明で、思い出すと何だか懐かしく、いつまでもあのままだといいなと思ってしまうます。

(北海道支社自然環境調査室・宮崎 薫)

目次

エッセイ	新緑とオジロワシ	1	Report	アメリカGIS情報 砂漠に生息するトカゲの生息地分析	7
特集	自然再生の時代・私たちが技術者が貢献できることは何か	2		ある日のフィールドノートから 河川敷を見渡して	8
マンガ	調査員物語 私は採集王・・・?の巻	6			